令和５年度　浅草小学校授業改善推進プラン

第６学年

1　浅草小探究モデルにおける児童の実態

Ⅰつかむ、見通す	A 課題作り	問題場面や資料から自ら問いをもつことのできる児童もいるが、友達に刺激を受けたり、共有する中で自らの問いとなったりしている児童もいる。なかなか自分事としての問いをもつことができていない児童もいる。全国学力・学習状況調査の結果を見ると、国語に対する肯定的な回答が低く、主体的に学習に向かうことに課題があることが伺える。
	B 学習計画を立てる	全体で話し合ったり、教師の支援があれば、見通しをもったり自分なりの計画を立てたりできる児童が多いが、指示を待つ児童もいる。
Ⅱ考える、つなげる	A 自分の考えをもつ	結論をもち、根拠や理由を明確に表現できる児童が増えてきている。しかし、自分の考えを話すことはできるが書くことは苦手とする児童、逆に書くことはできるが話すことは苦手な児童もいる。全国学力・学習状況調査の結果においても、国語の「書くこと」領域や他教科において記述で説明する設問の正答率が他の設問より低い。
	B 他者の考えを知り関連付ける	多くの児童は、自分の考えを伝えて友達の反応を知ったり、友達の考えに興味をもって聞いたりし対話を楽しんでいる。対話を通して、考えの共通点や相違点に気付き、整理しようとする児童が増えてきている。
Ⅲ創る、活かす	A まとめる振り返る	学習を自分の言葉でまとめたり、対話を通して自分の考えを再構築したりできる児童は増えてきているが、全体的にはまだ少ない。
	B 活かす	新しい問題場面に出合った時に、既習を活かそうとする児童が増えてきている。

2　目指す児童の姿

①学びに取り組む姿	②対話の姿	③探究する姿
自ら課題を見付け、ねばり強く学習に取り組む。	目的意識をもって自他の考えを比べ、互いのよさを活かしながら納得解を見いだす。	自己の学びを振り返り、自己の変容を自覚するとともに、新たな課題に踏み出す。

3　授業改善に向けての具体的な方策

Ⅰつかむ、見通す	A 課題作り	児童間で考えの違いが生まれる教材を提示したり、提示の仕方を工夫したりすることで、児童が問いをもてるようにする。また、児童の実態の把握に努め、児童の日常と結び付けたり、児童の力に相応する題材を設定したりする。
	B 学習計画を立てる	課題づくりを丁寧に扱い、児童が１単位時間や単元でたどり着きたいゴールを明確にできるようにする。
Ⅱ考える、つなげる	A 自分の考えをもつ	考えをもつことが苦手な児童には、選択肢の中から選び、選択の理由を考えさせる。社会では、資料を自分で選択する資料バイキングを行うことで、判断する力を養う。また、週１回 100 マス作文を行い、短い時間で物事を説明したり、考えを書きまとめたりする練習を行う。
	B 他者の考えを知り関連付ける	児童間に考えのずれが生じ、友達の考えを聞いてみたいと思う場面を設定する。友達の考えからつなげて発言したり、比べたり、組み合わせて新たな考えを作ったりすることを価値付けていく。思考ツールを活用し、考えを再構築しやすくする。
Ⅲ創る、活かす	A まとめる振り返る	考えをもつ場面を作ってそのままにするのではなく、随所に再考する場面を設定する。振り返りを学級で共有する。
	B 活かす	学習で用いた「見方・考え方」を掲示することで、次の学習に活かせるようにする。